

2025 年 9 月 29 日 令和 7 年第 3 回定例会（2 日目）

議案第 11 号 教育長の任命につき同意を求めることについて

松倉議長 日程第 5 議案第 11 号 教育長の任命につき同意を求めることについて を議題といたします。提出者の説明を求めます。

横田市長 議案第 11 号は教育書の任命につき同意を求めることについてであります。教育長に次のものを任命したいので議会の同意を求めるものであります。

氏名、佐藤 勇さん、生年月日昭和 39 年 9 月 26 日であります。

提案の理由であります、佐々木 智 教育長の任期が、令和 7 年 9 月 30 日を持って満了となりますことから、後任教育長を任命するため本案を提出するものであります。

本日の冒頭でも申し上げましたが、本市におきましては、市内中学校に勤務する教員が逮捕された事案が発生しており、本市及び教育委員会、学校は全力を上げて再発防止に取り組むとともに、すでに実施しております教員や教育カウンセラーによる児童生徒の心のケアについても、引き続き万全を期していかなければなりません。

本市は現在第 7 期総合計画の元、学校教育の推進、生涯学習の充実、文化・芸術振興に向けて取り組みを進めておりますが、教育委員会はその中核をなすものであり、教育長は地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育委員会の会務を総理をし、教育委員会を代表するとともに、具体の事務を執行するなど、教育行政に大きな権限と責任を有しているところであります。

このため任命にあたりましては教育行政にかかる総合的な観点から、慎重に判断する必要があり、本日のご提案となりましたが、先ほど申し上げました、本市教育行政が直面する課題に対し、遅滞なく適切に対応していただける方になっていただく必要があるものと考えております。

ご提案申し上げました佐藤 勇さんは、本市職員として保険福祉部長在任中は新型コロナウイルスという未曾有の危機に対応し、市民の安全安心のため医療機関や福祉施設との協議調整に尽力をされ、また、総務部長の在任中は財政規律に配意しつつ、子ども医療助成事業拡大、また小中学校へのエアコン設置にかかる予算調整を進めるなど、様々な政策課題に行政手腕を発揮してきたところであります。

本年 4 月からは、教育部長として現教育長を補佐するとともに、給食センター整備など学校給食への取り組みや、不登校対策のほか、対応が急務となっておりました勇舞中学校における特別支援学級設置にかかる教育施設の整備に向

けて取り組んでいるところであり、今後は教育長として教育委員会を統率をし、市民の期待と信頼に答えることができる教育行政を推進していただけるものと確信をしております。

市民が安心安全に暮らせるまちづくりを進める上で、様々な取り組みを進めてきておりますが、課題は多岐に渡っております。

教育分野においても同様であり、とり分け次の時代を担う子どもたちの学びの場である、学校現場においては子どもたちと常に向き合い、現場は常に動いている状況であります。

こうした中で教育長が判断する事項は、教育行政のトップとして多岐に渡り、一日足りとも空けることなく、まずは今回の事案など早急な対応が必要な案件に迅速に取り組むとともに、山積する様々な課題に率先して取り組んでいただくことを期待をしております。

教育行政の先頭に立って役割を果たしていただくことが、今回の事案を含め、児童・生徒、保護者、市民への信頼を、責任を果たすことであると考え、本日の提案となったものであり、私も市長としての立場から、役割をしっかりと果たしていく所存であります。

議案第11号資料に佐藤 勇さんの経歴を付しております。説明は省略させていただきますが、よろしくご審議、ご決定をいただきますようお願いを申し上げます。以上であります。

松倉議長 ただ今から質疑を行います。6番北山議員。

北山議員 今回の教育長人事に至る流れについて疑義がありますので、三回ルールに則ってお尋ねいたします。

この春に定年を迎えられた佐藤教育部長は、千歳市職員の定年等に関する条例第9条第3項の規定による特例任用の適用を受けて、部長職から降格しないまま総務部長から教育部長へと異動されました。この条例の規定では、「欠員を容易に補充することができず、業務の遂行に重大な障害が生ずると認める場合」、に特例任用できることとなっておりますが、この春の人事に当たっては、特に障害をきたすような前兆もありませんでしたので、この際の人事は特例任用の条件に該当せず、この9月に佐藤部長を佐々木教育長の後任とするための繋ぎとして行われたものではないのかとの疑問を、6月の一般質問で投げかけさせていただきました。

その際の市長からのご答弁では、この疑念に対して肯定も否定もされなかったわけですが、今回、私が予見した通り、このように佐藤部長を教育長に推挙する人事案が出てまいりまして、かつ後任の教育部長も滞りなく選任される予

定と聞いておりますので、半年前の特例任用理由となった人事上の「重大な障害」というのは、やはり初めから無かった、つまり法の主旨を逸脱した人事であったと私は受け止めております。

そこで改めて、この春に定年を迎えた総務部長を教育部長に異動させざるを得なかった「重大な障害」とは何だったのか。今回の教育長選任までの一連の人事の経緯について、任命権者たる横田市長から、筋の通るご説明をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

磯部総務部長 お答えいたします。重大な支障ということのご質問でございますが、本市においてはラピダスの進出以降、社会環境が急速に変化している状況にございまして、市民が暮らしやすく活力溢れるまちづくりを進めるにあたっては、子育て、教育環境や都市基盤の整備、人材不足への取り組みや多様化するライフスタイルに適切に対応する必要があるとこのように考えているところでございます。このため、組織体制の強化と適切な人事配置を行うことが必要であると考えまして、令和7年度に向けた人事にあたりましては、新たに次長職を部長職に昇任させることに加えて、定年延長と共に新たに導入された特例任用制度についても十分な検討を行ったところであり、この結果として2名の部長職を特例任用したところでございます。

これまでは定年延長や役職定年、特例任用の制度がなかったため、定年を迎えた職員に引き続き管理職として重要な役割を担っていただくことは不可能でありましたが、制度の改正に伴い、これらを活用することについても検討をしたところでございます。一方で、円滑で柔軟な組織運営を行うにあたっては、組織の新陳代謝を促進し、活力を維持するとともに、職員のモチベーションを向上させるよう取り組んでいく必要がありますことから、今後の特例任用の活用にあたっては、行政課題や組織の運営状況、こちらをよく勘案してですね、慎重に判断してまいりたいと考えております。以上です。

北山議員 もう一点、払拭できない疑問がありますのでお尋ねいたします。

千歳市では、昨年一年間でゼロ歳から二十歳未満の人口が402人も減り、また小中学校の児童・生徒数も179名減っているという厳然たる事実がございました。

これまでも私は再三言及してまいりましたが、早急に当市の教育行政、特に学校教育全体のレベル向上が図られなければ、今後、10万人という人口ビジョンの達成もさることながら、とりわけ若年層人口の復活は非常に厳しいと思われます。

先ほど市長からも言及がございましたが、このタイミングで、市内の中学校

に勤務する現任教員が全国を震撼させた盗撮グループの一味として愛知県警に逮捕され、自校の生徒に対してもセクハラまがいの行為があったと複数の保護者から指摘されていたことを、教育委員会も以前から把握していたとの報道がございました。

事件の予兆を把握していながら、迅速、適切な対応ができなかったばかりか、事件が発覚したのちも、教育長、教育部長が表に出て来ることもなく、信頼回復に向けたプロセスについても未だ具体的なアナウンスはありません。

穏便に、学校内の処分だけで済ませたいとする逃げの姿勢を感じますし、何を最優先すべきかという点で、明らかにこれは初動を過っていると思います。

横田市長は、ラピダス社が本操業に至れば、千歳市の人口ビジョンは達成できると自信を持っていらっしゃるようですが、果たしてこの状況で、子どもを安心してこのまちで学ばせられると考えられる保護者がどれだけいるのでしょうか。

私はたとえ教育長の席が一時空白になろうとも、まずは一旦立ち止まって、これまでの対応の経過を含めて、しっかりと検証すべきだと思いますし、積極果敢に動く教育委員会となるためには、大きく血も入れ替える必要があると感じております。

いまこの教育長人事を急ぐことによって、果たして当市の教育行政にどのような成果が見込めるとお考えなのか。市長のご所見をお示してください。

横田市長 はい。あのひとつ目のご質問でもですね、いろいろちょっとお聞きになって、そのの特例任用の関係については、前段総務部長から説明させていただいたところであります。

4月の人事において、先を見越してすでに決めていたんではないかと。そのことに対して、肯定も否定もしなかったという話がありましたが、特にあの肯定しているわけでもありませんでしたし、その時点でのことについては先々まだ見通せていなかったと、この半年でしっかりと熟慮して、適正を見極めて判断しようと思ったところでありますので、そういうご指摘は当たらないということであります。

また、色々ちょっとお話がありました、次世代半導体工場、ラピダス社が進出することによって人口が増えてという話で、確かにそういう想定はしておりますが、そうした中でも、単純に、増効果というかですね、それが全て現れるのではなく、今の全国的な少子高齢化の流れを、本市におきましても同じように受けて、今後、人口の減少局面にいずれは入っていくだろうと。

だからこそ今大事なことは、人口増に向けたいろんな取り組みも含めて、このまちでしっかりと、安全安心に向けて、皆さんが暮らしやすい、そういうま

ちづくりっていうのが最終的な私の目的であります。

当然、数字の目標って掲げるものはありますが、目的はこのまちでどうやって楽しく、安心して暮らせるのかという、そこに念頭を置いて、これからも政策を進めていくと。

そのための大事なところが、教育というところであります。先ほどのお話の中で、なんか空白を生じてもいいようなお話もありましたけど、それで果たして子どもたちへの責任が果たせるんでしょうか？

今月の末で、明日、今の教育長が任期を迎えるということで、10月からこれは一日たりとも空白を生じさせることはならないんですよ。教育長の権限と責任っていうのは本当に重大です。私も任命権を持っていますから、市長の任命において、教育長を教育分野のトップとして、しっかりと役割を果たしていく。そのために今まさに起こっているこの学校での案件、これはもう本当に先頭に立ってですね、やっていただきたい。

子どもたち、学校現場、あの何か教育委員会が出てこないで、なんか後ろ向きだというような話もありましたけど、決してそうではありません。

事件の概要をしっかりと把握しながら、本来であれば明日の任期切れの前の日に提案説明をこのようなかたちで行うというのは私も本当に心苦しいです。

ただ、事件の概要が分かった、分からない中で、なかなか皆様方に、この人事案件を提案するという、私はそこまでちょっと行けませんでしたので、時間をいただきました。

で、概要が少しずつ明らかになってきて、そのことを受けて、学校ではいち早く子どもたちへの学校での説明、そして保護者の方を200名ばかりだという風にお聞きしておりますが、1時間40分ぐらいにわたって、ご意見をいただきました。厳しい意見が相当あったと思いますが、その辺はですね、教育委員会も同席しながら学校長が適切に今できる説明をしっかりと行っていただいたと思っております。

今いろんなご意見ありましたけども、まずは今の喫緊のこの置かれている状況を、トップとして、これは、いち早くこの問題解決に向けて一丸となってやっていくための、そこはですね、やはり空白を生じることによっていろんな課題が出てきます。

今のこの問題だけではなくて、来年度に向けたいろんな予算の関係、その他諸々の関係、これは市の学校現場、そして市内の関係機関、さらには管内とのいろんな調整、これトップ不在でなかなか対応できない問題なんですよ。こうした多岐に渡る課題をしっかりと取り組んでいただくためにも、今回、私は提案をさせていただいたということでもあります。以上であります。

北山議員 はい。あの私も決して教育長人事に穴が開いていいと思っているわけでもございませんし、そのようなことを申し上げてるつもりもございません。

先ほど市長おっしゃられたように、事件の概要が分からないからこそ立ち止まるべきじゃないんですか。今後、今回逮捕された教員も含めて、あるいはこの教員が勤務をしていた学校内で、そのような事案が、余罪が出てくるかもしれない。そういった時に、これ遡って状況が変わってくる。今回の人事のことも含めてですね。

常に行政がベストパフォーマンスを発揮するように務めるのが首長の役目ですし、その選択と行動がベストパフォーマンスなのかどうなのかということをジャッジするのが我々議会人の務めであります。

今この人事案に賛成をして、後からいろいろここに語られていないことが出てくる。そうすると、これ我々議員としても市民に説明ができない。そういう状況であるから今一度立ち止まって、今回の事件の経過がしっかりと把握できるまでお待ちになった方がベターではないですかということを私は申し上げているだけでございます。

正直、今のご答弁ではですね、今回の教育長人事が事態を收拾して、この千歳市の教育行政の充実と質の向上に確実に寄与するという確信が私は持てません。

本日、市民の皆様も傍聴に来ておられますし、この議会中継は多くの市民や市職員の皆様も視聴しておられると思いますが、まさに今回の事件の説明責任を果たさなければならない当事者がですね、自ら検証もせず襟も正さずという状態のまま、うやむやのままに臭いものに蓋がされてしまうのではないかと、私は大変危惧をしております。

公正公平を旨とする自治体の長として、今回の人選の意義と正当性、そして今後の教育行政の展望をどうお考えになっているのか。今一度納得のゆくご説明をお願いいたします。

横田市長 おそらくちょっと根本的な考えがですね、なかなか折り合わないとかですね、少し間を置いて全貌が分かるまでという、自ずとこれから少しずつ、警察事案でありますから分かってくるのかもしれませんが、基本的にあの道教委の人事権での処分案件ということになります。

ですが、そのことについてやはり管内というか道教委とのいろんな連携、コミュニケーションを図りながら、その時点で公表できるものについては逐時出していくと思いますし、情報もですね、報告をするということになりますが、ですので、別に何かそれで覆い隠そうだとか、全くちょっと言葉を選んでいた

だきたいんですが、何も考えておりません。

子どもたちまた保護者、市民の皆さんにきちんと説明して、改善すべきところは改善をするんですよね。

これはもう学校の中でもそうですし、ひとつの学校ではなくて、ほかの学校も含めてこれ全体でやらなきゃならないことっていうのは、その司令塔を据えることがなんでおかしいことなのか、空白を生じることで市民説明ってできるんでしょうか？

私はそもそもそこが スタートの時点で考え方が異なっていると思います。私は首長として行政のトップとして、教育長を任命することで、私の権限が教育と別れてる部分がありますが、任命することで、またいろんな中のシステムで、例えば総合教育会議だとかまた常にいろんなコミュニケーションを通じてですね、また私も学校現場に訪問することもありますし、先だって、この事件後も行ってきました。違う学校ですけどね。

そういうようなことを通じて、コミュニケーションしっかり取っていききたいと思いますし、それをやることで一つ一つ、この問題への取り組み、またいろんな課題、先ほどもちょっと提案説明で申し上げましたように、例えば今、喫緊の課題である特別教育支援への対応、また私も大変憂慮してますけど、これはあの不登校というですね、いろんなこれは教育分野だけでなく、いろんなジャンルが絡んでることでもあります。今回、保険福祉部長経験者っていうことで、そういったような関わりも今後出てくるかと思っております。

それに加えて給食関係、給食センターの関係だとか、多岐にわたる課題が山積する中で「待ったなし」なんですよ。

ですので、そこに何か空白を生じてもいいようなお話をされると私は非常に心外でありますし、子どもたちが、未来に向かって、今学校の教育を通じて、夢とか希望だとか目標を掲げて、それに向かってですね、いろんな将来選択ができる。私はそんなまちであって、そういう社会であってほしいなと思っておりますので、そのことに向けてですね、学校、教育委員会と連携してしっかりと、これからは私自身も役割を果たしていきたいと、そのように思っております。以上であります。

北山議員 質問はしませんけれども、あの、質疑はしません。

松倉議長 お控えください。あの、質問は3回までとなっておりますので。発言は許可しておりませんので。